

千葉常胤生誕900年 第2回千葉氏サミット

■参加者

- ・ 勝部 修(一関市長)
- ・ 大橋 信夫(涌谷町長)
- ・ 佐藤 栄喜(相馬市教育委員会生涯学習部長)
- ・ 林 秀之(南相馬市副市長)
- ・ 利根 基文(佐倉市副市長)
- ・ 小坂 泰久(酒々井町長)
- ・ 所 一重(多古町長)
- ・ 岩田 利雄(東庄町)
- ・ 日置 敏明(郡上市長)
- ・ 江里口 秀次(小城市長)
- ・ 熊谷 俊人(千葉市長)

■オブザーバー

- ・ 諸岡 靖彦(成田商工会議所副会頭)

■平成30年5月26日(土)

■三井ガーデンホテル千葉

○司会 それでは、ただいまから第2回千葉氏サミットを開会させていただきます。

私は、本日司会を務めます千葉市総合政策局長の大西と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日御出席の皆様を御紹介させていただきます。

岩手県一関市長、勝部修様。(拍手)

宮城県涌谷町長、大橋信夫様。(拍手)

福島県相馬市生涯学習部長、佐藤栄喜様。(拍手)

福島県南相馬市副市長、林秀之様。(拍手)

千葉県佐倉市副市長、利根基文様。(拍手)

千葉県酒々井町長、小坂泰久様。(拍手)

千葉県多古町長、所一重様。(拍手)

千葉県東庄町長、岩田利雄様。(拍手)

岐阜県郡上市長、日置敏明様。(拍手)

佐賀県小城市長、江里口秀次様。(拍手)

そして、このたびオブザーバーとして御参加いただきました、千葉県成田市から、成田商工会議所副会頭、諸岡靖彦様。(拍手)

最後に、本日の議事進行を務めます千葉市長の熊谷俊人でございます。(拍手)

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行につきまして、熊谷市長、よろしくお願いいたします。

○熊谷俊人(千葉市長) 改めまして、皆様こんにちは。ようこそ千葉市にお越しいただきました。97万市民を代表して心から歓迎を申し上げます。

騎馬武者行列、いかがだったでしょうか。おかげさまで、比較的暑くない天気の中で実施できたことは大変うれしく思っております。全国の千葉氏ゆかりの地域から多くの皆様方に御参加、御協力をいただきまして、第2回千葉氏サミットが開催できる運びとなりました。今年には千葉一族の中興の祖と言われている千葉常胤の生誕900年という節目の記念すべき年でございます。その記念すべき節目の年に千葉常胤から連なる千葉六党の一族ゆかりの市町からこうして皆様方をお迎えし、そして騎馬武者行列を行うことができ、大変うれしく思っております。

第1回の千葉氏サミットにおきましては共同宣言を行いまして、千葉氏の全国的知名度

の向上を含めてさまざまな連携を深めていくことを確認させていただきました。本日のサミットは、前回とは異なりまして会議の形式をとらせていただきまして、皆様方から忌憚のない御意見をいただいて、今後の連携の方策について議論を深めてまいりたい、そのように考えております。

初めに、次回以降の成田市様のサミットへの参加に向けて、このたびはオブザーバーとして御参加いただきました成田市商工会議所副会頭、諸岡様のほうから、成田市と千葉氏の関係も含めて御紹介をお願いできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○諸岡靖彦（成田商工会議所副会頭） 諸岡でございます。今日は、オブザーバーということで参加させていただきました。

ただいま成田市では成田山開基1080年祭という10年に1度のお祭りが行われておりまして、小泉市長は大変お忙しいということで、かわりに今回は出席をさせていただいております。

御案内のとおり、成田市はお不動様で有名な成田山新勝寺の門前町でございます。それと同時に、成田空港も今年が開港40周年ということでございまして、比較的といいますか、地方の都市としましては大変に恵まれた財産に囲まれているということでございますけれども、やはりいろんな意味で経済はつながっておりますので、今後、外国のお客様がお見えになるということになりますと、横につながって、この中にもいらっしゃる多古の町長さん、ここの市町がいろんな形で今後は横につながっていかなければいけない。その前に、県都千葉市とこういう形で横につながるができる機会が与えられておりまして、大変これはありがたい機会ではないかなと、そんなふうに思っております。

さて、千葉氏と成田市の関係でございますけれども、千葉常胤の4番目の息子、千葉六党のうちの四郎胤信という方がおられます。もともとは千葉市若葉区多部田というところが領地でございましたけれども、現在は成田市になっております成田市の北部、合併前は旧下総町、大栄町でございましたけれども、大須賀郷というところを父常胤から譲られまして、後にそこを大須賀の保という形で自立いたしまして大須賀氏を創始したわけでございます。父常胤に従いまして源平の戦、それから奥州の合戦で大いに戦功を立てまして、頼朝公より陸奥国好島庄、これは福島県のいわき市になりますが、好島庄を賜ったと歴史には載っております。

胤信の本拠地の須賀保というのが、当時は利根川が今の位置ではなくて今の江戸川的位置を流れていたそうございまして、その当時、大須賀川が流れているその流域が胤信

の所領の中心でございました。その流れ込む先には香取海という広大な内海があったそう
でございまして、水運、舟運でいろんな形の連携をとっていたのかなと、そんなことが予
想、想像されるところでございます。

現在では成田空港の北側にございまして、将来3本目の滑走路ができますと、新しい国
際航空交通やら国際観光の要衝にもなることが期待されると思っております。この大須賀
氏の支配領域が、現在大須賀川の流域、それから尾羽根川、荒海川、根木名川の流域に広
がっており、これが現在成田市に編入されてございまして、成田市の久住地区、そして神崎
町の一部にも及ぶそういった支配地域を持っておったのが大須賀氏でございます。

大須賀胤信の直孫でございます胤氏は、鎌倉幕府内の権力闘争で北条氏と三浦氏が争っ
た宝治の合戦というのがございまして、それに勝って大須賀宗家の地位を確立しまして、
その後大須賀一族は鎌倉期から戦国期にかけてずっとこの地を平穩に治めていたと、そう
いう御縁がございます。

そんなことで、成田市は千葉氏サミットの参加団体として、次回からは市長が御参加を
させていただきたいと、そんなふうに思っておるわけでございます。どうぞよろしくお願
い申し上げます。

○熊谷俊人 諸岡副会頭、ありがとうございます。大須賀氏は千葉六党の1人ござい
まして、千葉一族としては欠かせない存在だと我々も考えております。次回からぜひ成田
市様にも御参加をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題の1であります第1回千葉氏サミット以降の活動について。事務局のほ
うから説明をお願いいたします。

○事務局 総合政策部長、藤代でございます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼
いたしますけれども、説明をさせていただきます。

第1回千葉氏サミット以降の活動について御報告を申し上げます。資料に沿いまして御
報告をさせていただきます。

まず、資料1をお願いいたします。2年前でございます。平成28年、私ども千葉開府
890年を記念させていただきまして、親子三代夏祭り、非常に暑い時期に皆様方にお集ま
りいただきましてサミットを開催させていただきました。その際に取りまとめさせていた
だきましたのが、こちらにございます「千葉氏サミット共同宣言書」でございます。

内容は大きく2つでございます。1つに、『千葉氏』の全国的知名度の向上を目指しま
す」、2つに、『千葉氏』に関する歴史や文化について、『日本遺産』認定を目指しま

す」、この2点を大きく掲げさせていただきまして取り組みを進めていこうとなったわけでございます。

1枚資料をおめくりいただければと思います。資料2でございますが、第1回千葉氏サミット以降の取り組みということで、まず連携のあるものを私どものほうで拾い出しをさせていただきました。ただ、何分にもまだ始まりましてフェーズが浅いということもありまして、我々と皆様方の都市との1対1的な部分が非常に多くなってしまっている状況でございます。こちらについては以降の議題において連携をさらにいかに進めていくかを御議論いただくということでございますので、その参考としていただければと考えております。

まず、1点目の項目でございます。「千葉氏」の知名度向上という部分でございます。第1回のサミットの際、私どもの親子三代夏祭りを同時開催させていただきました。その際にも、各自治体の皆様方からブースを出していただきまして、その地方、その都市の特産品あるいは御紹介などもしていただいているところでございます。これは28年、29年と続けて行わせていただいております、この平成30年度も同じようにコーナーを設けさせていただきますので、ぜひまた御協力をいただければと思っております。こちらを開催させていただきました、やはり地域の特産品を目当てにお見えになれる私ども市民の方々もいらっしゃいますし、あるいは千葉市という都市の特徴でございますけれども、全国のさまざまところから皆様方においでになっていただいております。そうした中で、ああ、あの品は懐かしいねなどというお話も、私どものほうに伝わってきているところでございます。

2点目でございます。こちらのほうは佐賀県さん、小城市さん、あと私どもの連携、そして御協力をいただきまして、成田空港、あと佐賀空港に航路を持ちますLCCであるスプリングジャパンさんの全線、これは成田—佐賀間だけではなくて、スプリングジャパンさんが飛んでいる全ての飛行機の中に置いていただける機内誌に『千葉常胤公ものがたり』を、こちらは恐らく私どもの所管を通じまして各都市の皆様方に御配付させていただいているものかと思っております。こちらを平成29年7月から大体季刊で全4回にわたりまして掲載させていただきました。このLCCさんが中国資本ということもありまして、中国語の翻訳をつけたものをこの中にお入れさせていただいたところでございます。その際に、佐賀県様、そして小城市様には本当にお世話になりましてありがとうございました。

続きまして、こちらはお手元にパンフレットを用意させていただいております。開府

890年を記念してつくった「千葉氏ゆかりの都市のご案内」という金色で結構目立つ資料でございますが、こちらを1万部作成させていただいております。こちらはさまざまな機会を通じて、各都市さんで御入り用ということであればこちらもお配りさせていただきながら、配付させていただいたところでございます。中のほうは、各所管の皆様方に御協力いただきまして、どういうものを載せようかというところまで御相談させていただきながら、各都市の御紹介をさせていただいております。

最後に4点目でございますが、「ちば市政だより」もお手元に御配付させていただきました。中ほどの11ページになります。11ページの特集記事でございますが、まさに今日の騎馬武者行列の記事などを入れさせていただいておりますが、この左下のところに「千葉開府900」というロゴを入れながら、「千葉氏ゆかりの都市へ行こう！」ということで、これは継続的に皆様方の都市に行きましょうということで千葉市民の皆さんに御紹介させていただいているところでございます。今は7回目ということで、近隣でございます佐倉市さんをたまたま載せさせていただいております。こちらのほうで7回、今まで御掲載させていただいた皆様方には、所管の皆様本当に御苦労かけまして申しわけございませんでした。ありがとうございました。まだ未掲載の各都市さんにおかれましては、今後私どものほうから御相談等させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今までの取り組みは、先ほど申し上げましたように、まだ取り組みがスタートしたばかりですので、どうしても私どものものが中心になってまいりました。これを今後どうしていくかにつきましては、また後ほど御議論をよろしくお願いいたします。

2点目に、日本遺産の申請でございます。こちらは30年1月に認定申請を行わせていただきました。タイトルとしまして「BUSHIDO～北天の星と生きた一鎌倉武家が指し示す、^{ものふ}武士の道～」、こちらはA4横で色刷りの資料をお手元に配付させていただいております。私ども自分でつくっていますので言うてはいけないのですが、きれいな資料としては取りまとめをさせていただいておるところでございます。しかし、大変申しわけございません。既に私どものほうからもお伝えさせていただいておるところでございますが、5月24日に文化庁から平成30年度における日本遺産の認定についてということで、76件今年度は申請があったそうでございます。そのうち13件認定された中に、私どもは入ることはできませんでした。

できなかったわけでございますが、私どもどういう形でこの申請を行ったかにつきましては、申請書を皆様方にごらんになっていただくのは恐縮でございますが、一応こんなも

のを出したということでお手元のほうにはお入れさせていただきました。

今回の申請概要について簡単に御報告を申し上げますと、ストーリー名としましては「BUSHIDO」、これはローマ字書きをしております。「BUSHIDO～北天の星と生きた一鎌倉武家が指し示す、^{もののふ}武士の道」ということをごさいますて、申請者につきましては、日本遺産につきましては単独の都市での申請も可能でございますが、シリアル型と申しまして、地域連携型、ネットワーク型の形で私ども申請をさせていただいたところがございます。

簡単にストーリーを申し述べますと、鎌倉幕府の有力御家人であった千葉氏ということはおもう皆さんも御承知のところと存じます。そうした中で、北極星を神格化した妙見を信仰し、一族結束の象徴として特徴的な菩薩像や図画、図像をつくり出すとともに、星をあらわした家紋、これは月星のマークであったり、九曜、七曜の紋でございます。家紋を用いたということでございます。千葉氏は所領を非常に拡大いたしました。それとともに、全国にこの妙見の信仰とともに広がったというところでもあります。その加護を受けるために「正直」というところに千葉氏は非常に重きを置きまして、それが武士道、武士の道に励むという意志にも浸透し、独自の勇壮な弓馬の道、そして典雅な和歌の道を育んだということでございます。そうした一族の流れをくむ新渡戸稲造が、日本文化論として『武士道』を著したというところまでを我々のストーリーとして申請させていただきました。これは本当に事務局を務めました私どもの力不足で恐縮でございますけれども、今回の申請はかなわなかったというところがございます。

ただいま資料3まで御説明をさせていただきました。今までのものはどうしても私ども千葉市が絡んだ部分になりますけれども、連携型のものを御紹介させていただいたところがございます。

それ以外に、各都市でさまざまな取り組みを行っていただいております。そのような取り組みの内容につきましては会議資料4として取りまとめさせていただいておりますので、後ほどごらんになっていただければと思います。

御報告につきましては以上でございます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。本当に我々千葉市においては、この間、2年前の千葉氏サミットから市民の皆様方の千葉氏に関する認知度というものはかなり上がってきておまして、特に子供たち、小学生はみんな『千葉常胤公ものがたり』という漫画を読んでいて、その中には皆様方の町、市の紹介をさせていただいております。そういうとこ

ろからも継続的な交流であったり、認知度向上を我々としては図らせていただいております。

そうした中で、先ほど千葉市の取り組みを私どもの事務局のほうから申しあげましたけれども、それぞれの市町のほうでも取り組んでいただいたこと、また、それ以前より取り組んでいただいていることなどがあるかと思っておりますので、もしそうしたそれぞれの地域で取り組まれていることなどへの補足の説明などがございましたら、どうぞお願いできればと思います。

では、小城市の江里口市長、どうぞよろしく願いいたします。

○江里口秀次（小城市長） 佐賀県の小城市から来ております市長の江里口と申します。今回は第2回目ということで、このサミットを開催していただきまして本当にありがとうございました。そしてまた、今年が千葉常胤生誕900年の記念ということでお祝い申し上げて、すばらしいこのイベントが開催されまして、私たちも武者行列に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

○熊谷俊人 そう言っていてありがとうございます。

○江里口秀次 実は、前回の2年前、第1回目のサミットを開いていただいたときは、実は小城市も千葉氏が小城に来られてまちづくりを始められて約700年という1つの節目の年でした。ですから、小城の祇園祭も1つの節目の700年祭をやったんですけれども、第1回目の千葉氏サミットと、小城市の700年祭とちょうど一緒の年でしたので、小城市のほうでは、歴史シンポジウムをやったよとか、千葉のほうでもこうやって皆集まってサミットをやったよとか、そういったものを1つの資料としてまとめさせてもらいました。これを子供たちにも、それからまた町の人たちにも見せて閲覧しました。小城の歴史は江戸時代までさかのぼればある程度皆さんわかってらっしゃいますが、中世というのはなかなか知らないが、改めてこうやってまとめたことによって、地元の皆さんたちが中世の自分たちの土地のことをよくわかったということをお願いいただいておりますので、非常によかったなと思います。

特に、今年佐賀県は、明治維新150年の節目の年でもあります。佐賀の場合は、千葉氏が関東から小城に来て、そしてあの北九州一円を治めてすごい勢力を持ったんですね。そして、その千葉が今度は龍造寺の代になった時、龍造寺の配下についたんですが、そのときに、実は、江戸時代の佐賀鍋島の藩祖であります直茂公は、千葉氏を一時養子にされているんです。ですから、江戸時代鍋島藩になっても、先ほどの祇園祭にしても、千葉氏か

ら伝わっていたようなことも、ずっと継承されておりました。だから、佐賀の場合は千葉、龍造寺、鍋島という歴史の中のつながりは非常にしっかりあって、そして明治維新につながっているという歴史の流れもあったと思います。

そして、9年前に地元の大学と、共催で大学が保存している古文書と地元にある資料を特別展という形で開催しております。ちょうど9年前に千葉についての千葉氏の資料を1つの図録としてまとめて、そして歴史の流れをずっとわかりやすく示している図録ができておりました。これは今回皆さん方にお配りしたいなと思って探したんですけども、もう図録がなく、この中には日蓮の自筆のものとか、いろんな資料とか、それらが残っておりまして、当時の小城での千葉氏がどういう動きをしてきたかということが全部研究されて出ております。

あと、第1回目のサミットで、今日多古町の町長さんがお見えですけれども、多古の千田庄というところが自分たちのルーツだということがわかりました。2年前にちょっと私も訪問させていただいて、去年は多古の町民の皆さんたちが、長崎に行く途中に小城の千葉城址の前の村岡羊羹の総本舗に寄っていただいたり、いろいろな交流ができたかなと思っておりました。そういう動きをこれまでさせてもらっております。

以上でございます。

○熊谷俊人 江里口市長、本当にありがとうございました。まさに明治維新150年ということで、非常に全国的にも注目されている中で、薩長土肥の肥前の部分に千葉氏が非常にルーツとして重要な役割を果たしているということで、恐らく鍋島直茂が千葉一族にゆかりがあったり、また、江藤新平も千葉一族でありますし、そういう意味で肥前と千葉氏の関係というのは、まだまだ我々としては積極的にPRをしていける余地があると思っておりますので、そうした部分においてもしっかり皆様方と意識をして、PRを含めて務めさせていただきますと思います。

そして、我々にとって一番うれしいのは、この交流をきっかけに小城市さんと多古町の交流が生まれているというのは大変うれしゅうございます。そういう形で網の目のようにそれぞれが何らかの形の縁を頼りに交流が生まれてくるというのが我々にとっては大変うれしゅうございますので、そうしたものをこれからもぜひ連携しながら推進していければと思っております。ありがとうございます。

ほかの市町さんでいかがでしょうか。もしよろしければ、酒々井の小坂町長、本当にいろいろ新たな仕掛けをされていらっしゃると思いますので、説明などいただければありがたく思

います。

○小坂泰久（酒々井町長） 酒々井町長の小坂でございます。酒々井町は、ちょうど千葉氏サミットをやった後、平成28年の10月1日に酒々井・千葉氏まつりというのを始めまして、今年で3回目になります。千葉氏の終えんの地といいますか、そういう町でございます。酒々井町はもともと6,000人くらいの町で、今は2万1,000人くらいいるんですが、3.5倍は外から来られた方ということでございまして、酒々井の歴史について知らない方もかなり多い。ということで、本佐倉城下にあった祭りを復活しようということで、城下から約400年続いて明治時代に中止になったわけでございますが、それからまた100年後に復活という形でございまして、そういうのを進めながら、当時の競馬きせうまとかばか乗りですとか仮装行列、そういうのを中心として今始めております。

いずれにしても、酒々井という地と千葉氏との関係をもう少し掘り下げて、そしてまた酒々井でも今酒々井学ということで、学校の方で子供を中心にしてそういう話を、歴史ですね。3万4000年前の旧石器時代の全国最大級の遺跡があるということで、これも国の史跡に申請しようということで、今手続で文科省のあれを受けておるようですが、そういうことで、現代の酒々井につながることを伝えようとしております。

そういうことで、隣の佐倉市さんとはもともと城下町を含めて一体の地でございます。佐倉という名前は、もともとは今酒々井の上本の交差点があるんですが、296号と51号ですね。あそこが佐倉というところでございまして、谷が登っていったところ、「サク」というのは谷ということもあると思ひまして、その地名の起こりでございます。そういうこともありまして、本佐倉城の城跡についていろいろと、今年はまだ指定の20周年ということでございまして、来年の1月にその辺のところもやろうかと、佐倉市さんと一緒に話を進めているところであります。

以上です。

○熊谷俊人 小坂町長、ありがとうございます。本当に新たな形で千葉氏まつりを開催していただいておりますし、また、御紹介あったとおり、本佐倉城は国史跡で20年という節目の中で、佐倉市さんと、そして酒々井町さんとはまた連携もさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

何ととっても馬というのは非常に大きなテーマでございまして、今日はまさに相馬のほうから来ていただきましたけれども、非常にそこは我々としても力を入れていかなければいけないと思っておりますので。

○小坂泰久 本当に今日はすばらしい乗馬体験をしまして、ああいう形で平安といいますか鎌倉の初めの衣装で乗れたのは非常に、まさにすばらしい体験でございました。

そしてまた酒々井町も、今市長さんがおっしゃられましたように、馬ということで、千葉市さん等も含めていわゆるシリアル型といいますか、そういうタイプの中で、馬について日本遺産といいますか、そういうのにもチャレンジしたいと思っております。江戸時代には佐倉牧の支配していた野馬会所が酒々井町にずっとありまして、そういういきさつの中で関係する市町さんと一緒に、その辺の馬をテーマに進めていければと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

○熊谷俊人 ありがとうございます。本当に馬産の国としての歴史も我々長うございませし、今でもホースクラブは本州の中で最大規模、最大の数を誇っておりますので、うまく馬術文化というんですか、それを皆様方とも連携してやっていければと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

ほかの市町さんで何かございますでしょうか。相馬市の佐藤部長、お願いいたします。

○佐藤栄喜（相馬市生涯学習部長） せっかくですので、宣伝を兼ねて一言。

我々相馬市としましては、第1回目のサミット以降、共同宣言を受けまして、観光、物産、交流の側面から参加させていただいております。具体的には、親子三代夏祭りに物産店を出店させていただいております。

これからも引き続きお願いしたいと思いますが、我々震災から8年目を迎えて、ハード面は大体先行きが見通せるようになってきたんですけれども、ソフト面、特にあの原発事故からの風評払拭等々については相当時間がかかるのかなと思っております。そういった中でこういった物産展、やっぱり食の安全性であったり、すぐれた製品を内外にPRできる絶好の機会だと思っておりますので、今後とも参加させていただきたいと思えます。

あと、宣伝なんですけど、先ほど日本遺産の「BUSHIDO」の中で、妙見信仰で相馬中村神社がございました。こちらは御周知のとおり、千葉神社さんとは妙見信仰つながりで、相馬野馬追の際には総大将、相馬のお殿様が出陣する場所でもございます。さかのぼれば、千葉常胤氏が奥州征伐の際にこの場所に宿営を張ったというような話もございませす。この中村神社は20年ごとに式年遷宮を行っておりまして、今回17回目の遷宮祭が来月の15、16、17日に開催されます。我々の祖先がいにしえから連綿と続けてきたこの営みに思いをはせる絶好の機会だと思っておりますので、お時間のある方はどうか足を運んでいただけ

ればと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○熊谷俊人 佐藤部長、本当にありがとうございます。やっぱり妙見信仰というのは、本当に我々の市町にとっては、全国的にはユニークなところもあると思っておりますので、この妙見信仰をどういうふうに、今、陰陽師ですとか星占いとか、いろんなブームにもなっておりますので、多くの方々にとっては関心を持っていただきやすいテーマだと思えます。妙見信仰をひとつ我々としてもPRをうまくやっていきたいと思っておりますので、ぜひその式年遷宮も、我々も何らかの形で見させていただきたいと思っておりますし、また成功も祈念させていただきたいと思えます。

また、相馬市さん、それから南相馬市さんもそうですけれども、私も福島県知事のほうからも修学旅行をもっともとに戻したいという強い要望もいただいております、我々首都圏でもどういうふうに行うことができるだろうかという議論をさせていただいているところもあります。この点については、今後の連携事業の話にも絡んでまいりますけれども、ぜひこの千葉氏ゆかりの部分も考えながら、修学旅行なども私たちは積極的に皆様方と連携させていただきたいと思っておりますので、その点についてもまた御相談をさせていただければと思います。

そのほかに取り組み状況についてございますか。郡上市の日置市長、どうぞよろしくお願いたします。

○日置敏明（郡上市長） 郡上市でございますが、郡上市と千葉氏との関係は、お隣にいらっしゃいます千葉県の東庄町に拠点を持っておりました千葉常胤の六男、胤頼の系統を引く千葉氏でございます。東庄に拠っていたということで、こちらでもそうかもしれませんが、郡上では東氏を名乗っておりました。この東氏は郡上へ来てからずっと、その拠点は最初と後のほうと少し違っておりますが、主たる拠点は今郡上市の大和町というところにあります。そこに、篠脇城というお城があり、そしてそのお城の下にといいますか、城山のふもとに居館を構えておったようでございます。その東氏館跡が昭和50年代の圃場整備のときに見つかったということで、今、そこをいわば拠点にしまして一種の公園といいますか、そのようなものをつくっております。特に、郡上へ移ってから9代目の東常縁という人、この東氏は非常に歌道、歌学、日本の和歌に秀でた家柄ということでございまして、東常縁という人は古今和歌集の秘義を伝えるという古今伝授の形式を確立した人と言われております。そのようなことで、郡上市では物的にはそういう居館跡が出てきたという、これは国の史跡名勝になっているんですが、そこと、そういう歌の伝統ということ

で、現在、古今伝授の里フィールドミュージアムという1つの拠点をつくっております。

そういうことで、いわば和歌、短歌によるまちづくりということを始めまして、今そのフィールドミュージアムを中心にして、全国の学生による短歌大会とか、子供さんの短歌とか、そういうようなことを1つはやっております。文武両道に秀でた町ということも1つのキャッチフレーズにして、和歌の伝統を伝えている面では「短歌によるまちづくり」。それからもう1つは、千葉氏は武将ですから、当然文武の武のほうもすぐれていただろうということで、「古今伝授の里剣道大会」ということで、岐阜県の近隣もそうですが、かなり広範に来ていただいて中学生の剣道大会をやっております。そのほかにもいろんな催しをやっておりますし、特にお隣のおいでいただいています東庄町とは、このサミットの以前から、私どもの東氏のふるさと東庄町であるということで、私どももいろんな意味で郷土史の研究者を初めお邪魔させていただいていますし、東庄町からも郡上市へは今、夏の盆踊りのときとかに来ていただいていますし、交流を深めていこうとしております。

今日も、実は先ほどの行列を見物に来ながら、今日、あすと2回目のこのサミットへの参加ということで、郡上市からもいろいろと東氏の文化を継承していこうという民間団体の人たちが来ておまして、今日は東庄町へ行って交流をさせていただいているということでございます。

私どもとしては、こういういわば文武両道の、どこの地域の東氏も、千葉氏もそうだろうと思いますが、何かそういうことで交流のきっかけができればいいなと思っています。もう1つは、そういうことで和歌、短歌のまちづくりということをやっているのですが、9代目の東氏の研究、東常縁の研究などをやられた方で、先年亡くなられた大阪大学の島津忠夫さんという和歌、短歌の研究者の先生の膨大な和歌、短歌に関する図書を御寄贈いただいております。ということで、そういうものを一堂に集め、今もう少し利用しやすい形で集めようということでしたっきりした施設をつくろうと計画しております。先ほど来も出ていますし、あしたも話が出るとは思いますが、郡上市にも妙見神社というのがございます。そして、古今伝授の里フィールドミュージアムもあるんですが、その一角に、今年度と来年度ぐらいかかるかもしれませんが「短歌交流館」という交流館を事業として1つの施設をつくって、さらにこの和歌、短歌のまちづくりという形で全国的にもネットワークを形成していきたいと思っております。

○熊谷俊人 日置市長、本当にありがとうございます。そういう意味で非常にルーツを大

事にされて、かつそれが歴史だけではなくて文化面ですとか、スポーツ面ですとか、うまくルーツから、アイデンティティーから今につながるものを派生されているということが非常によくわかりました。

これはそれぞれの千葉市を初め大変参考になる取り組みでありますし、また、連携のある種きっかけのキーアイデアにもなるものかなというふうに拝見させていただきました。そして、やっぱり郡上と東庄町はまさにそうしたルーツつながりで、今回も千葉氏サミットをうまく活用、合わせるような形で実際の交流をされていらっしゃるということで、少し岩田町長のほうからもお話をいただければありがたいと思います。

○岩田利雄（東庄町長） 東庄の岩田でございます。先ほど郡上市の日置市長から御案内があったとおりでありまして、実は、千葉県内でも各地域に散らばった六党の1人の末っ子であります。それが非常に才能があったということでいろんな面で活躍した胤頼でありますけれども、実は、この流れがずっと続いていて、あるところで偶然にも同じ郷土史を学ぶ人たちがスタートしてこの交流が始まったわけであります。お互いの歴史を知ることによって地域を知る、そしてこの形がうまくいけば、これから子供たちにも伝えていけるということでありました。

岐阜県という地域と、なぜ千葉県の我が地域がそういうようなことでスタートを切ったのかというのを、まずその時代にさかのぼって調べたりしながら、それで何かわかるようなことを子供たちに一つでもこの時期に残したいということで、50周年の町の記念すべき年に、町民、子供たちを含めて知っていただくということで、『東氏物語』を漫画の本にして発行いたしました。これは、町だけでなく、いろんな意味で方々に知れ渡ってほしいなという思いと、それは町民が余りにも、歴史的になぜこういう町があるのか、存在するのか、そしてこの市、町は、この地域はどういう人たちがつくったのかという歴史を学校ではもちろん教えておりませんので、少しでも子供たちには今住んでいる地域がどういう地域で、それがどういう流れの中で今存在するのかということをおわかってもらうため、やはり歴史を訪ねていく1つの形をつくっていきましょう。

今いる子供たちが、これから先もそういうつながりがある地域、千葉の一族として今全国各地にそういう地域があるという理解と、また、そういう地域がある、バックボーンがあることによって、これからそういうつながりをもっともっと広げていってくれるのではないかなという思いを込めて、今そういう形をとっておるところであります。

実は、郡上へ行きますと有名な郡上おどりがあります。郡上おどりというのはもう全国

的に有名でありますけれども、踊ったりしている場所は全国に少ないんですね。やっぱり本場へ行ってやってみようということが多いものですから。どうかこれを千葉県でもということで、町民が、8月の郡上おどりはロングランで30余日開催されますから、その何日かはバスで行って、郡上おどりを実際に踊ってみて、覚えて、それを町民に伝えていこうという運動を今しております。ですから、毎年毎年バスを出して行った方たちが20人、30人とふえていくような形をとって、町の踊りの大会とか盆踊り大会とかありますけれども、そこには郡上おどりが入って踊るようにいたしております。

それとあわせて、先ほども市長のほうから紹介がありました、住んでいる方々の交流を今どんどんやろうということでやっております。それには、なぜ下総の国から郡上に行ったのかということが、歴史家は、学んでいる人たちは必ず知りたいと思うんですね。それで、その地に行ってみようということになります。例えば、その時代にはせて、何百年前になぜ我々はこの下総の地から郡上に来たのだろうかというのも、絶対自分の、出身者であるし、今名乗っている名字がどうして郡上でも名乗られるのかというのを知るためにも、やっぱり今を生きる人たちはそういうものを知りたいところがありますから、ですから男女問わず、年齢を問わず、今お互いに交流をしようということでやっております。

これからもまたこのつながりが、東庄町と郡上だけではなくて、本日御出席いただいております一関から佐賀県の小城まで広がっていくようなことができればいいなというような思いをしておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○熊谷俊人 わかりました、岩田町長、本当にありがとうございました。我々も郡上でこういう郡上と東庄での交流というのは1つ参考になりますし、また広がる可能性もあると思っておりますので、ぜひその点についてはさらに掘り下げさせていただければと思っております。

それでは、一関の勝部市長からお願いいたします。

○勝部 修（一関市長） 一関の勝部でございます。今、大変いいお話がありました。地域の歴史ということ、私は、今全国的に少子化、人口減少という課題がある中で、どうやって地域を守っていくかということ、やはりそこには次の世代をしょって立つ子供たちに対して、地域に伝わる歴史というものをしっかり植えつけると言ったら言葉は変ですけども、教えていかなければならないだろうと、見せていかなければならないだろうと思っております。そして、将来その子供たちが、自分が生まれ育った地域に誇

りを持って堂々と語れるように、そういう子供に育ってほしいという願いがあって、今一関では、ちょうど平泉が滅亡した後、一関を中心とする東北の真ん中のあたりですけれども、葛西と千葉という2つの勢力がありました。そして、秀吉から、小田原城を攻めるので参陣せよという命令が下りました。さて、その小田原にはせ参ずるかどうかということで大分千葉一族は悩みまして、東山というところに唐梅館というものがあるんですが、そこに一族、家臣が結集いたしまして軍議を開きました。結果、やはり一族の誇りを持って戦おうではないかということで戦ったんですが、何せ秀吉軍の数の前には歯が立ちませんで滅びてしまうわけでございますけれども、残された人たちはその後も農業のほうに身を転じたりして、その後また力を盛り返してきて今に至っているわけです。

ですから、一関でも千葉を名乗る人、苗字が千葉の人がすごく多いわけなんです。そういうものを再現して唐梅館絵巻という行事が今も展開されているわけですが、実はこれには小学生がたくさん参加しているんです。役割を持って参加してまして、学校でも総合学習の場面で取り上げていただいています。こういうのを継続していくことによって、地域に誇りを持つ子供たちがどんどん育って行ってほしいなと思っているわけです。そういう生きた歴史、そういうものを何とかして継続していくことによって、地域を守っていくというものにつなげていければいいなと思って、今やっているところでございます。

○熊谷俊人 勝部市長、本当にありがとうございます。本当に子供たちに地域の歴史をどう伝えていくか、これはもうそれぞれの都市の本当らしさ、アイデンティティーを残していくためにも大変重要な取り組みだと思っております。そして、本当に唐梅館絵巻のように、かなり壮大に、かつ地元の思いで復活させたような、そうしたものも我々も大変注目させていただいておりますので、この点についても心から敬意を表したいと思います。

それでは、ほかの市町さんから。では涌谷町の大橋町長、どうぞよろしく願いいたします。

○大橋信夫（涌谷町長） 宮城県涌谷町です。今、勝部市長さんのほうから子供たちに歴史をどう伝えていくかということが出されましたけれども、私たちの町にも妙見宮がございまして、9月の第1土曜日に例大祭の前に行われる宵祭りが開かれまして、そのときに獅子舞を奉納するんですね。ちょっとこれを見ていただきたいんですが、下の写真の一番右端、ちょっと小さくて見えづらいところがあるんですけれども、ここに月二九曜の紋の入った獅子舞の胴幕があります。この獅子舞を操っているのは子供たちで、しかも小学

生、幼稚園の子供がいます。京都の愛宕神社からこの獅子舞を持ってきたんですが、そういった妙見宮の言い伝え、それを伝えて子供たちにしっかり歴史を教えていこうと毎年やっております。

涌谷町は、千葉常胤の三男、武石三郎胤盛氏が始祖でございまして、軍功によりまして宮城県南、亘理地方などを拝領いたしました。亘理家15代、亘理宗元の代に伊達の支配下になりまして、17代に伊達植宗の子、元宗を養子といたしまして、亘理領主にしたんですが、ちょうどその後、伊達政宗が米沢から岩出山に国替えになりまして、亘理様も涌谷へ来ました。涌谷伊達家3代目に伊達姓を許されたんですが、涌谷といいますと、例の寛文事件がございまして、その最中に第4代当主伊達宗重公が絶命するんです。その後、年期の回忌ごとに法要を営んできましたが、50年ごとに大遠忌法要をやってきました。2020年、あと2年で350回忌の大遠忌法要をいたしますが、それを盛り立てるべく今年の4月に涌谷藩志会が結成されまして、現在その会員が約200人集まってまいりました。その後の大きな行事で、350年祭に大遠忌法要をやって終わりかということですが、今、18代当主が現存しております。ところが、19代がおられないものですから、この18代当主のおいごさんが今東京にいます。その子を説得して、この大遠忌法要とあわせて、19代の当主に襲名披露しようと。その際には皆様方にも御紹介したいと考えております。ありがとうございました。

○熊谷俊人 ありがとうございます。本当にそれぞれの市町で、そうした形で歴史を残しながら、また、節目のそうしたイベントも我々もっとしっかりと知って、それをどういふうに交流の機会につなげていけるかということで、我々も改めて考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、ほかに取り組み状況についてはいかがでしょうか。所町長、どうぞよろしくお願いいたします。

○所 一重（多古町長） 多古町の所でございます。町といたしまして2点ございます。

まず1点は、お手元にも資料を配付させていただいておりますが、平成29年度は多古町歴史講座全5回を開催いたしました。平成28年度に行われました第1回千葉氏サミットを契機に開始したものでございまして、シリーズタイトルを「千田荘と千葉氏を探る」と題して、毎回千葉氏に関する事柄をテーマに、その分野の一流の研究者を講師陣に迎えて行いました。毎回150人前後の聴衆の方においでいただきまして、うち、千葉市内を含めまして町外50名ほど参加していただいております。今年度も同様に千葉氏をテーマに全5回

の講座を開催する計画で、講師の先生方もおおむね決定しておりまして、一部テーマや内容については現在調整中でございます。

あと1点は、多古城跡の空堀の整備、千葉宗家千葉胤直にかかわる千田荘の拠点、多古城跡に立派な空堀跡が残っております。現状では、幅約20メートル、深さは5メートルほどと大規模な空堀で、防御にすぐれたものとわかります。しかし、近年は竹が密生しておりまして、非常に荒れた状況であった。昨年度に竹を伐採しまして、見学できるように整備をいたしました。また、見学者の利便性を図るため、空堀の上端に説明板や付近の道路に案内看板を設置いたしました。今年度も、引き続き空堀の環境維持を行っております。将来的には観光公園として活用できないか、そのように考えておるところでございます。

以上です。

○熊谷俊人 所町長、ありがとうございます。本当に多古町さんでやられているこの講座は、大変網羅的で、かつ非常に入場者の方も安定して来ていらっしゃるということで、大変我々としても素晴らしいプログラムだなと思っております。こうした形で継続してやっていただくことはありがたく思いますし、我々もしっかりと見習わせていただきます。また、史跡の部分についても着実な整備をされているということで、実は我々千葉市も、まだまだ千葉一族関係の史跡を十分に保存、整備、案内できてないところがありまして、それを1つ1つ今我々も頑張っていかなければというフェーズですので、大変参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでしょうか。では、南相馬市の林副市長、どうぞよろしく願いいたします。

○林 秀之（南相馬市副市長） 南相馬市の林でございます。今日は、我が町の昔で言うところの中之郷の騎馬会から騎馬武者10頭参加させていただきました。これが本当の連携じゃないかなと、こんなふうに思っております。

実は、先ほど諸岡副会頭さんのほうから成田山開山1,080年というお話をいただきました。実は、諸説あるんですが、相馬野馬追も今年で1,081年と。これは平将門、俗に言う相馬の小次郎将門という名前なんですが、これから1,081年と、こういった大変長い歴史なわけでございます。

市民につきましては、実は私もそうだったんですが、千葉氏とのかかわりというのが余り理解できていないと。平将門からの流れをくんでいるのだという思いが強いものですから、千葉常胤公の次男、師常公の、これがいわゆる相馬中村藩の始まりということで、そ

ういったことを市民にもっともっと我々が伝えていって、昔のこの流れをやはり知らせなければいけないなど、こんなふうを感じているところでございます。

そういった中で、実は、平成15年に合併前の原町といった時代なのですが、原町市立博物館と千葉市立郷土博物館が、妙見信仰の巡回展を行った経過がございます。ですから、こういったものの巡回展をこれからも再度始めまして、市民に千葉家とのつながりをもう少し知っていただいて、これからの連携に流れをつくっていききたいと、こんなふうを考えております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

○熊谷俊人 林副市長さん、ありがとうございます。本当に今回野馬追をさせていただいて大変ありがたく思っております。

市民の皆様方も、我々積極的にPRをいたしましたので、改めて我々千葉市の市民の皆様さん方も、さらに相馬についてのいろいろな連携の気持ちも生まれたと思いますし、先ほど御紹介いただいたとおり、やはり何らかの形で巡回していくというのは非常に大きなインパクトがあると思っておりますので、ぜひその点につきましても議論させていただきたいと思っております。

それでは、千葉氏に関する取り組み状況はよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

続きます、もう既にさまざまな話を実際に出していただいておりますけれども、今後の連携方策について議論を深めてまいりたいと考えております。

私のほうで少しお話を伺っていて、先ほど南相馬市の林副市長さんからお話いただいたとおり、何か歴史的なテーマに基づいて、ゆかりの市町合同で巡回的なそうしたものをそれぞれの郷土資料館や美術館やさまざまところでやっていくというのも1つあるかなと思っております。また、それぞれの町のルーツにちなむような行事に関して、どういふふうに周知をして、それぞれ住民の皆さん方の交流につなげていくのか、観光面も含めた部分もあろうかと思いますが、そうした部分。それから、やっぱり妙見というものが非常に大きな共通のルーツになっているところがございますので、これは今日、先ほど千葉神社に我々行きまして宮司とも話したときに、意外と神社同士での交流はないというような話がございました。そうした意味で、政教分離の部分は気をつけながらも、妙見信仰というのをキーワードに、ゆかりの神社もしくはそのゆかりの方々と連携しながら、そうした部分での交流というのも1つあり得るのではないかなと考えさせていただきました。

また、郡上市の日置市長から短歌大会ですとか剣道大会ですとか、そうしたものをおや

りになっているということで、こうしたスポーツか文化の大会的なもので、そうしたゆかりのところで連携をして集まっていくというのも、これも1つやり方としてはあるのかなと思いました。

また、踊りのような、これも各地域盆踊りをやってない地域は恐らくないと思いますので、盆踊りの中に郡上おどりを入れていくというのも自然な中での交流なのかなと思いました。

また最後に、この前のフェーズで私も申し上げましたけれども、やはり相馬市、そして南相馬市さんに関しては、東日本大震災からの復興支援というのは、これはもう全国的な我々のテーマだと思っております。そうした中で、観光、修学旅行などを含めて、原発について子供たちに考えてほしいというところもありますし、また、ルーツからの子供たち同士の交流というのも非常に大きなテーマだと思っておりますので、こうしたあたりが私が皆様方の取り組みを聞かせていただいた中で今後連携できる項目かなと感じさせていたいただきました。

改めて皆様方のほうで、こういう連携事業があり得るのではないか、こういうふうにやってはどうか、そうしたアイデアを頂戴できればと思いますが、いかがでございましょうか。

それでは、小城の江里口市長、お願いいたします。

○江里口秀次 これからの連携について、今熊谷市長のほうからいろんな方法論についてもお話をしていただきまして、いろんな取り組みのやり方があるかと思っております。

それで、今日私も各町長さんや市長さん方の話を聞いていて、子供たちに地元の歴史を知ってもらい、これが基本的に非常に大事だという話をさっきされましたが、本当にそのとおりだと思っておりますし、例えば、小学校でふるさと歴史講座みたいな勉強をやっていると思いますが、中世の千葉についても、それぞれの地域で子供たちにもしっかり知ってもらいということを地元でやっていく中で、例えば夏休みにこの千葉市で子供サミットみたいなものを大々的にやるのもちょっとおもしろいのかなというのが第1点です。

そしてもう1つは、先ほど日本遺産の申請の話がありました。相当な件数の申請があつて、そんな中で13件ですか、なかなか厳しいなと私もちょっと実感したんですけども、これはぜひ諦めないで、また再度チャレンジしてもらいたいと思います。そして、今日11ですか、成田市さんも入れたら12になりますけれども、やっぱり我々が連携することによって、NHKの大河ドラマへのチャレンジもおもしろいかなと思いますし、ひいては観光

戦略にもつながっていくことなのではないかなと思っておりました。

以上でございます。

○熊谷俊人 江里口市長、本当にありがとうございます。子供たちに歴史教育という意味で子供サミットというものもおっしゃっていただきました。夏休みを生かして、こうしたそれぞれの市町の子供たちが何らかの形で交流する機会というのは非常に希望も持てると思いますし、この点についてはぜひ掘り下げさせていただければと思います。

また、私は聞いていて思ったんですけれども、それぞれの市町さんで非常に魅力的な資料をつくられていて、私は個人的に収集させていただいて読ませていただいているんですが、その中で、例えば岩田町長のところでつくられているような漫画ですとか、そうした子供たちにとつきやすいものとかは、意外とそれを逆輸出のような形で読むのも、これもこれでありなのかなと思っています。例えば、千葉市の子供たちが『千葉常胤公ものがたり』を読んだ後に、今度はそれぞれの市町の千葉氏関係のことが書かれているものを読んでみようというような形で、相互にそうした子供たちへの歴史教育系を交換し合うようなものも十分考えられるのではないかなと思いました。

また、日本遺産については、どうしても非常に多くのものが申請されていく中で、私ども初めての申請でございました。この点については、これから連携を深めていく中でより磨き上がってくるものが出てくると思いますので、この点についてもしっかりとこれからも取り組んでまいりたいと思います。また、大河ドラマに関しても、やはりこうした全体的な知名度を上げていく中で、私どももいろんな切り口があるかと思っておりますので、この点についてもぜひ連携をさせていただければと思っております。

ほかにいかがでございましょうか。それでは大橋町長、どうぞよろしく願いいたします。

○大橋信夫 先ほど妙見宮の獅子舞のことを申し上げましたが、さっき千葉神社に行きました。妙見の本宮ということで、できれば子供たちに千葉神社の前で奉納させてみて、当然熊谷市長が考えている子供たちの交流の1つのきっかけになろうかと思っておりますので、ぜひやってみたいなと思っております。

それから日本遺産、これは文化庁が2020年までに全国100カ所を認定しようということで、あと19年と20年と、もう2回ありますので、ぜひ再度アタックしていただいて、今日集まった皆さん方に大きな勇気づけをしていただければと思います。ありがとうございます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。千葉神社で奉納というのは大変私もおもしろいなと思いましたが、この点についてはしっかりと宮司とも話をし、やっぱりそういう機会をつくりたいと思います。ありがとうございます。

また、日本遺産についても、しっかりと諦めずにチャレンジを深めていきたいと思うので、この点についてもありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。では、勝部市長、お願いします。

○勝部 修 この日本遺産の申請は、いずれこのサミットに参加している自治体が全部名を連ねているわけですが、去年は千葉市さん単独で申請されたんですか。

○熊谷俊人 では、日本遺産の取り組みについてももう少し詳しく補足させますので、どうぞお願いします。

○事務局 千葉市都市アイデンティティ推進課長の市倉でございます。日本遺産の申請について、少しでも御説明をさせていただきます。

今年の2月になりますけれども、日本遺産の申請を「BUSHIDO」という形でさせていただきました。お手元にこういった資料を配付させていただいております。全体の冊子としてはこれぐらいの分量でやらせていただきました。

○熊谷俊人 これは日本遺産の初めての申請ということですね。

○事務局 はい、初めての申請でございます。前回の第1回千葉氏サミットの共同宣言を受けまして、初めて申請をしたという形になっております。

○勝部 修 わかりました。せっかく申請者の中に名前を入れさせてもらっている以上、何も協力できなかったなと思って、今になってこれはちょっとうかつだったなと思ったんですよ。もし今度、さらに再挑戦する際にはぜひ声がけをしてください。このメンバーで首長がそろって押しかけて、少しでも実現に近づけるように一緒になって、千葉市さんだけに負担をかけないでみんなと一緒に動いたほうが良いと思いますので、そういうふうにぜひお願いしたいと思います。

○熊谷俊人 勝部市長、ありがとうございます。そういう意味で、恐らくそれぞれの首長さん、もしくはそれぞれの市町さんのお力もおかしいいただいて、合同でどのような形で要請活動をしていくかということが1つと、それから、技術的な側面でまだ足りない部分を、これも皆様方の御協力でどういうふうに補充をしていくのかという2つの側面があるかと思います。前者についても、次の申請の際には早目にそうした部分で共同戦線を張れるように意識をしていきたいと思っています。

また、もし技術的な側面で、少しやりとりを国としている中で、まだまだ追加をしなければいけないという部分について、少し所管として紹介をしてもらえればと思います。

○事務局 日本遺産の申請に当たりましては、千葉市が中心になりまして文化庁といろいろな協議を重ねてまいったところでございますけれども、どうしても日本遺産というのは観光の視点が重要になってまいります。この中にも幾つか独自で申請された市町の方がいらっしゃるかとは思いますが、今、何が目に見える物が残っているかと、今の生活に歴史に基づく何が残っているか、かつ、それはできれば祭礼というものだけではなくて、365日、1年間目に触れるものは何があるか、そういった視点が非常に重要になってまいりますので、そういったものを探し出していくということが大事になってまいります。

○熊谷俊人 ありがとうございます。そういった意味では、観光面のところでどういうふうに魅力としてつくり上げていくかということが課題であろうと言われておりますので、その点について技術的にどう上乗せをしていくか、この部分をこれからも連携させていただきたいなと思います。

ほかに、連携の方策について何か御意見ございますか。勝部市長、お願いいたします。

○勝部 修 今、情報化時代の中で、今日ここに集まっている首長さんの中で、どれだけの方が例えばフェイスブックをやっていたり、そういう情報発信を自らなさっている首長さんがいれば、それをもっともっと増やしていければいいかなと思っているんですよ。結構これは効果がありまして、私もかつては、あの東日本大震災が発生した直後は、もっぱらツイッターでした。短い情報をどんどん市民に、あるいは周辺の住民に提供していくのには一番適していたものですから、ツイッターをやっていた。ところが、ツイッターというのは匿名なものですから、だんだんやるにつれて余り好ましい言葉でない言葉が多くなってきます。要するに、簡単に言えば汚い言葉になってくるので、私はツイッターはもうそこでクローズしてフェイスブックに切りかえたわけです。

今では、自慢ではないんですけども、恐らく全国の首長の中でも10本の指に入るぐらいの情報発信をしているつもりです。今日もこのサミットが終われば、千葉でこういうことが今日あったんだということを、自分の日記がわりに使っているようなもので、市民向けに、ああ、うちの市長は今日どこに行って何をやっているんだというのをわかるように、情報公開の一端でもあるかなと思ってやっているんですが。その中で、より多くのサミットに名前を連ねている首長さん方がどんどん情報を出していけば、かなり広がりは大きくなると思います。芋づる式に大きく広がっていきますので、それを受け取った方が情

報発信力を持った人であれば、それでさらに倍増していきますから、倍々ゲームのように広がっていきます。これは余り軽視すべきことじゃないなと思って、私はこのところをどんどん活用すべきだなと思っております。

もし、自らやらなくても（これは余り大きな声では言えないんですけれども）、秘書さんや、職員がある程度のところまでサポートしてくれるような形で発信していくのもいいのかなと思いますので、ぜひそのあたりを皆さんでちょっとずつ心にとめていただければ、この千葉氏サミットの広がりも、もっともっと今より大きくなっていくのかなと思って提案させていただきます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。発信についても連携しながら、さまざまな手法で発信力を高めていきたいと思っております。ありがとうございます。

また、それ以外の連携についていかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

千葉氏に係る連携と、それから議題的にはその次が千葉氏関連以外のさまざまな連携という、もう両方込み込みで議論をさせていただいたかなという気もしておりますけれども、両方踏まえて、何か千葉氏関連以外でもこういう連携ができるのではないかみたいな御意見があれば、これもあわせてお伺いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。そういう意味では、我々もいただいた御意見を我々として整理させていただいて、何から具体的にやっていくかということでアイデアを我々事務局として交換させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、時間まであと残り少しとなりましたけれども、改めてそれぞれの項目を抜きに、何か自由に皆様方の中で御発言がありましたらお伺いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

それでは小坂町長、どうぞお願いたします。

○小坂泰久 皆さんももう御存じかと思うんですが、本佐倉城が去年の4月に続日本100名城に選ばれました。その御報告をちょっと忘れてしまいました。それとまた、本佐倉城の指定20周年ということで、来年の31年2月16日に記念事業を実施したいなと思っておりますので、また皆さんにも御案内したいなと思っております。済みませんが、ひとつよろしくお願いたします。

○熊谷俊人 ありがとうございます。我々としてもそうした節目を応援していきたいと思っておりますので、ぜひ今後とも情報交換を密にさせていただければなと思っております。

そのほかにございますでしょうか。それでは日置市長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○日置敏明 私もそれで思い出しました、私も申し忘れましたが、郡上八幡城も今回の「続日本100名城」で選んでいただきまして、同期生でございます。よろしくお願ひします。

それから、先ほどの発言でこれも申し忘れましたが、なぜ郡上に千葉氏の御縁ができたかということなんです。私どものいろいろな歴史資料の中で、東庄にいる千葉氏の一族、東氏が郡上と縁ができたのは、1221年の承久の乱でいわゆる鎌倉幕府の政権基盤が確立したのだらうと思いますが、そのときの戦功で郡上山田庄をもらったということで、そこからできてきました。1221年ですので、間もなく2021年、したがって800年祭にあと3年ぐらいでなります。あしたまたいろいろそんなことの言及があるかもしれませんが、地元の人たちもぜひ「800年祭」をやりたいと、800年にちなんだことをやりたいということをお願ひしておりますので、東庄はもとよりでございますが、全国の千葉氏にゆかりのある皆様方にも、やはりそういう節目のときに、また私たち郡上市も、東庄町との関係だけでなく、千葉氏と我々の歴史的な縁というものを広く市民の皆さんにも知ってもらえるようなことを何か考えていきたいと思ひます。まだ具体的に細目が詰まっておりますので、今のところはそんなことを申し上げて、またいろいろお世話になると思ひます、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○熊谷俊人 日置市長、ありがとうございます。非常に大きな節目のお話をいただきましたので、その点についてもしっかりと我々も連携していきたいと思ひます。

そのほかにございますでしょうか。岩田町長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○岩田利雄 先ほどの歴史研究会ですとか、そういう団体がいろいろ講演会、講習会を開催するというものでありまして、年間を通じて毎年毎年同じ形の中で年6回やっております。というのは、一時に集まれる人は少ないんですが、毎年2カ月に1回は講義を聞く場所、それは郷土史の方たちが全部自分が講師になって、それで自分の発表を聞いてもらうという形でありますけれども、それを繰り返しております。

それから、年に1回、その人たちを含めて郡上の話をしますと、来年の視察のときには一緒に連れていってくださいという人たちの、いわゆる募集みたいなものにもつながっているんです。その都度だけで募集するのではなくて、来年の何月にはまた行きますよ、ですから行く場合の下準備をしているようなものですがけれども、しかしながらこの集め方と

いうのも非常に効果があります。行ったら何かをしようという目的をきちんと持ちますので、意外とこういうようなPRは必要なのだろうと私は思っております。一人でも多くの町民を連れていこうということでもありますので、この運動がどんどん広がればいいなど、子供たちにもその都度そういう話をさせていただきます。

実は、今日地元で東氏の館跡が、堀が見つかったものですからお祭りをやっております。郡上の人たちはここから、千葉氏から、集まっているものですから、そこにも参加しようということでありました。これは子供たちから、そしてまた養護施設の人たちが、この堀を見つけて伐採したり何かするのに大変な労力を使って手伝っていただきました。ですから、私たちが見つけたという意識が強いものですから、その人たちのお祭りでもあるんですね。ですから、その人たちと住民の交流の場としてお城祭りという形で、今年で3回目ぐらいになるのでしょうか、やっております。

いろいろ申しあげましたけれども、要は1つのとっかかりはつくったわけでありますから、これがいろんな形の中で、どのような形かわかりませんが、余りきちんとしたものよりも、こういうものをといるその都度その都度いいアイデアがあればそれを1つの形にしていく、そういう形で長いおつき合いができればいいなど、このように考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

○熊谷俊人 岩田町長、ありがとうございます。非常に参考になるお話です。我々行政が何らかの形で交流するタイミングに合わせて、住民に周知をして同行者を募っていくというのは、行政と行政ですからある程度項目が整理されているところに乗っかるという意味では、個人で行くよりもいろいろ深いことを知ったり交流ができる可能性もあるということで、そういう意味で行政がきっかけになりながらも、住民がそこに乗れるような仕掛け、呼びかけをしていくというのは大変重要なことだと思っておりますので、我々も皆様方のところに、何らかで私や幹部が行くときもそういう呼びかけをさせていただいて、できる限り人との交流をそこから生み出していくという意識をしっかりと持っていきたいと思っております。大変ありがとうございます。

そのほかにいかがでございましょうか。江里口市長、どうぞお願ひいたします。

○江里口秀次 2点ほど私もPRをさせていただきたいと思ひます。冒頭に、地元の大学との交流事業という形で特別展を開いているという話をしましたけれども、実は今年の10月、11月に中世のお城、要するに山城ですね。中世の城と館というテーマでまた特別展をやる予定をしています。それで、今小城市にある千葉城址については、西日本最大の山城

と言われているんです。中世のころは結構あちこちに山城があったような感じですので、そういった山城と館というテーマで特別展を開催し図録を作ります。それについては、また各市町の皆様方にお配りしたいと思っております。また、今日は目の前に芦刈のノリを皆さん方にお配りしているかと思いますが、実は、佐賀の有明海のノリというのは、今15年連続売り上げ枚数日本一です。今、諫早干拓の問題もありますけれども、ノリだけはしっかりいいのがとれているんですね。芦刈のノリというのは佐賀ノリのちょうど中心部でつくっているところなんですけれども、ぜひまた第2部のときにこれをお召し上がりいただければと思っております。

以上でございます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。私も大変これは楽しみに、千葉県もノリ文化はかなり定着しております、千葉市も県庁所在地の中ではノリ消費量1位になったこともございますので、これはしっかり我々も縁としてPRさせていただきたいと思っております。

そのほかにいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

本当に深い議論をしていただきましてありがとうございます。今日のこの時間だけでも、どれだけそれぞれの町に縁がそれぞれあるかということがわかったと思えます。どうしても戦国時代ですとか江戸時代というのは非常にわかりやすいがゆえに多くの人たちが知っているわけですが、源平や鎌倉時代というのは専門的な人たちが知ってはいるものの、一般の方々にはまだまだなじみがないところもございまして。しかし、この時代こそがそれぞれの町のルーツに非常に深くちなむ、ルーツに起因するものが多いということ、それから我々それぞれの地に生きる人たちの一族としてのルーツにも非常にかかわるものが大きゅうございまして、そうした意味で、歴史であると同時に、町や人のルーツにもつながっていく物語がそこには潜んでいると思えます。そこをぜひ、それぞれの市町の皆様方の連携を通してそうした部分に思いをはせられるような機会を、それぞれの住民や子供たちにつくっていきたいと考えておりますので、この第2回目の千葉氏サミットを契機に、ますますさまざまな分野において臨機応変に交流が進んでいくことを心からお願い申し上げたいと思っておりますし、我々千葉市としても、事務局として間に立ってそうした調整をさせていただきたいと思っております。

最後になりますけれども、皆様方におかれましては、円滑な審議運営に御協力を賜りましてありがとうございました。私からこの議事進行をこれで解かせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。(拍手)

○司会 皆様、大変興味深く、有意義な御意見、御議論をありがとうございました。

以上をもちまして、第2回千葉氏サミットを終了させていただきます。ありがとうございました。